

氏名	大野 曜吉
職名	法科大学院客員教授

[略 歴]

年 月	事 項
昭和 53 年 3 月	東北大学医学部卒業
昭和 57 年 3 月	東北大学大学院博士課程医学研究科社会医学系法医学専攻修了
昭和 57 年 4 月	東北大学医学部法医学教室・助手（～昭和 60 年 5 月）
昭和 60 年 6 月	琉球大学医学部法医学教室・助手（～昭和 60 年 10 月）
昭和 60 年 11 月	琉球大学医学部法医学教室・助教授（～平成 2 年 5 月）
平成 2 年 6 月	日本大学医学部法医学教室・助教授（～平成 4 年 4 月）
平成 3 年 11 月	東京都監察医務院・非常勤監察医（～平成 30 年 3 月）
平成 4 年 5 月	日本医科大学大学院法医学分野・教授（～平成 31 年 3 月）
平成 10 年 4 月	早稲田大学法学部・講師 同大学院法学研究科・講師（～平成 18 年 3 月）
平成 16 年 4 月	早稲田大学法科大学院・講師
平成 23 年 4 月	専修大学法科大学院客員教授
平成 26 年 9 月	慶應義塾大学法科大学院・講師
平成 31 年 4 月	日本医科大学名誉教授
平成 31 年 4 月	日本大学法学部・講師
令和 1 年 9 月	日本大学法科大学院・講師

[社会における活動等]

年 月	事 項
平成 6 年 4 月	名古屋空港中華航空機事故身元確認に協力
平成 7 年 1 月	阪神・淡路大震災死体検案・身元確認に協力
平成 20 年 11 月	中国山西医科大学客座教授（第 1 6 7 号）
平成 23 年 3 月	東日本大震災死体検案・身元確認に協力
平成 23 年 9 月	中国浙江警察学院名誉教授（～平成 26 年 9 月）
平成 26 年 4 月	法務省刑事施設被收容者不服審査調査検討会委員（～平成 29 年 3 月）
平成 27 年 9 月	中国浙江警察学院名誉教授（～2020 年 9 月）
平成 27 年 9 月	中国西安交通大学医学部客座教授（～平成 30 年 9 月）

[主な研究業績等]

著書、学術論文等の名称	発行または発表の年月	備 考
著書（主なもののみ）		
1. 事件からみた毒—トリカブトからサリンまで— 一章 一酸化炭素毒殺事件とトリカブト事件 ある保険金殺人の記録. (株)化学同人. 1-32.	平成 13 年	
2. 賠償科学概説—医学と法学との融合—日本賠償科学会, 民事法研究会. 74-79, 416-422.	平成 19 年	

3. 臨床法医学テキスト(第2版) 第12章 賠償医学. 中外医学社. 285-300.	平成24年	
4. 賠償科学 改訂版—医学と法学との融合—日本賠償科学会, 民事法研究会. 79-84, 449-455.	平成25年	
5. トリカブト事件と私, めるくまーる.	平成31年3月	
論文(主なもののみ)		
1. Ohno.Y. et al. A Simple Method for Calculating the Probability of Excluding Paternity with Any Number of Codominant Alleles. Forensic Sci.Int. 19. 93-98.	昭和57年	
2. Ohno.Y. et al. Calculation of the True Length from Length and Width of an Open Wound. Res.Pract.Forens.Med. 33. 103-106.	平成2年	
3. Ohno.Y. et al. The Influence of Tetrodotoxin on the Toxic Effects of Aconitine in vivo. Tohoku J. Exp. Med. 167. 155-158.	平成4年	
4. Ohno.Y. The Experimental Approach to the Murder Case of Aconite Poisoning. Journal of Toxicology. -Toxin Reviews-. 17(1). 1-11.	平成10年	
5. Ohno.Y. Tetrodotoxin-Mediated Delay in Aconitine Toxicity-A Murder in Okinawa. Forensic Science Review.26(2).139-144.	平成26年	
6. 大野曜吉他. 42種の索条で緊縛された特異な死体例. 法医学の実際と研究. 22. 187-196.	昭和54年	
7. 大野曜吉他. 連続嬰兒殺事件. 法医学の実際と研究. 24. 83-88.	昭和56年	
8. 大野曜吉他. 保険金殺人事件. 法医学の実際と研究. 25. 85-88.	昭和57年	
9. 大野曜吉他. 感電による他殺の1例. 法医学の実際と研究. 30. 185-189.	昭和62年	
10. 大野曜吉他. 頭部の発見されないバラバラ殺人事件の死因鑑定例. 法医学の実際と研究. 32. 269-276.	平成元年	
11. 大野曜吉他. 無限円柱モデルによる直腸温降下曲線法のコンピュータシミュレーションプログラム. 法医学の実際と研究. 33. 335-341.	平成2年	
12. 大野曜吉他. 「病死か災害死か」民事鑑定例. 法医学の実際と研究. 34. 231-235.	平成3年	
13. 大野曜吉. 直腸温降下曲線法による死後経過時間推定. 日医大誌. 60(2). 1-6.	平成5年	
14. 大野曜吉他. 法医鑑定の立場から(2)創傷鑑定の読み方“連載 科学鑑定の動き 8”. 季刊 刑事弁護. 11 autumn. 106-110.	平成9年	
15. 大野曜吉他. 法医鑑定の立場から(4)薬物鑑定の読み方“連載 科学鑑定の動き 10”. 季刊 刑事弁護. 13. 134-140.	平成10年	
16. 大野曜吉他. ある殺人事件裁判に関する直腸温および胃内容について	平成14年	

の人体実験例. 法医学の実際と研究. 45. 181-187.		
17. 大野曜吉. 保険金支払紛争例における鑑定: 鑑定人の立場から. 賠償科学. 29. 37-45.	平成 15 年	
18. 大野曜吉. アコニチン毒に関する法医中毒学的検証実験. 日本法医誌. 60. 101-109.	平成 18 年	
19. 大野曜吉. 東日本大震災における検案活動. 日医大医会誌. 7(S). 26-29.	平成 23 年	
20. 大野曜吉. トリカブト毒性のフグ毒による遅延作用: 沖縄トリカブト殺人事件. 法医学の実際と研究. 60. 1-7	平成 29 年	